

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

## 関西、兵庫地区の肝 Co の養成とスキルアップの現状調査と全国均てん化と 標準的評価方法の確立

研究分担者：飯島尋子  
学校法人兵庫医科大学 消化器内科学肝胆膵内科 特別招聘教授

**研究要旨：** 令和5年まで兵庫県の肝疾患診療に関わる二次医療圏で医療機関との間にネットワーク「兵庫モデル」を構築し論文作成に至った。肝炎医療コーディネーター（肝 Co）養成研修会は、コロナ禍で対面から WEB 形式へ変更したことで受講者や再受講者の増加が見られた。今年度から肝 Co 認定試験を導入した。認定の有効期間は、5 年となる日の属する年度の末日までとした。試験の作問は講演した先生方をお願いし、平均正答率は 97.5%と高かった。認定制度により継続的な活動推進と支援を目指す。

### A. 研究目的

令和5年までに兵庫県の肝疾患診療に関わる二次医療圏10圏域で肝疾患診療に関わる医療機関との間にネットワーク「兵庫モデル」を構築した。ネットワークを活用し、兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査を行った。

また今年度肝 Co 養成研修会の中で、5 年任期制とした認定試験を初めて導入し、その結果を集計した。

### B. 研究方法

実態調査は、二次医療圏における肝疾患専門病院、協力病院にアンケートを送付し集計を行った。また肝 Co 研修会は、令和6年度は、養成研修会を2回実施した。2回のうち、1回目がオンライン参加+オンデマンド、2回目をオンデマンドのみとした。初の試みとなる認定試験は受講後に Google フォームで解答を送信する形式とし、集計を行った。

### C. 研究結果

1. 兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査を行ったところ、回答率は80%超となり兵庫県における肝 Co の活躍推進の結果と考えられた。
2. 肝 Co 養成研修会へ申し込んだ人数：317 人中、認定試験受験数は 264 人であり、83%の受験率であった。
3. 認定試験は、肝 Co 養成研修会で講演をした先生方に作問をお願いし、肝炎の基礎知識・肝 Co の役割など幅広い分野からの出題となったが、平均正答率は 97.5%と高い結果だった。
4. 正答率9割を下回った問題は、HCV 抗体陽性とウィルス量との関連性であった。

問題番号	問題	問題文	解答
問題2	1	慢性肝炎の治療には抗ウイルス薬が有効である。	○
	2	C型肝炎治療では、HCV 陽性を目標として DAAs(直接作用型ウイルス薬)を用いる。	○
問題3	3	HBe 抗原陽性の患者さんは体内に HBs が存在する。	○
	4	HBe 抗原陽性の患者さんは必ず HBe DNA が陽性である。	×
問題4	5	肝炎医療コーディネーターは、予防、受検、受療、フォローアップの活動をすべて一人で完結しなければならない。	×
	6	肝炎医療コーディネーターは肝がん減少のため、受検、受診をすすめるために患者さんの気持ちを考える必要はない。	×
	7	肝炎医療コーディネーターは肝がんの移行を減らすために多職種で連携し予防、受検、受療、フォローアップにおいて、次のステップに進めるよう働きかける役割である。	○
問題5	8	新設肝の診療において、肝臓の機能化の評価を行うことは、たいへん重要である。	○
問題7	9	日本肝炎デーは7月28日である。	○
受講確認方法説明	10	今年度(令和6年度)よりコーディネーターの登録の向上を図るため、認定の有効期間(5年間)が設けられた。	○

### D. 考察

初めて肝 Co 認定試験を実施し、平均正答率は高い結果となった。認定の有効期間は、認定を受けた日から 5 年となる日の属する年度の末日までとしているが、肝 Co の異動や退職などもあるため、認定期間や所属の管理が今後の課題の 1 つと考えられた。今後は継続した肝 Co の活躍を促す予定である。

また、認定試験受講後にスキルアップ研修会への受講や啓発活動を促すため、二次医療圏ごとの肝 Co 同士のミーティングなどの開催などをする必要があると考えた。

さらに兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査を行ったところ、回答率は 80% 超となり、兵庫県における肝 Co の活躍促進の結果と考えられた。

### E. 結論

兵庫県肝 Co 養成研修会で初めて認定試験を行い、肝 Co の任期を 5 年と設定した。

### F. 政策提言および実務活動

#### <政策提言>

なし

#### <研究活動に関連した実務活動>

なし

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査

上田 佳秀, 尹 聖哲, 植田 勝明, 颯 聖人, 榎本 平之, 飯尾 禎元, 猪熊 哲朗, 梅田 誠, 金 秀基, 多田 俊史, 田中 秀憲, 西勝久, 萩原 秀紀, 林 宏樹, 山下 幸政, 中村 育夫, 福本 巧, 江口 有一郎, 飯島 尋子

肝臓 (0451-4203) 65 巻 12 号 Page575-580 (2024. 12)

#### 2. 学会発表

飯島尋子、上田佳秀、植田勝明、高嶋智之、西村貴士、福西新弥、榎本平之、狩野春艶、上野聖子、米澤敦子、尹聖哲、江口有一郎. 兵庫県における肝炎医療コーディネーターの現状と問題点—兵庫モデルの構築を目指して—(特別企画) 第 60 回日本肝臓学会総会 2024. 6. 13 熊本

### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

#### 1. 特許取得

無し

#### 2. 実用新案登録

無し

#### 3. その他

無し